



TITLE:

所外4 HIV/SIVキメラウイルスを用いた  
個体レベルにおけるHIV病原性の  
解明(Ⅲ 共同利用研究 2.研究成果)

AUTHOR(S):

速水, 正憲; 松林, 清明

---

CITATION:

速水, 正憲 ...[et al]. 所外4 HIV/SIVキメラウイルスを用いた個体レベルにおけるHIV病原性の解明(Ⅲ 共同利用研究 2.研究成果). 霊長類研究所年報 1997, 27: 119-119

ISSUE DATE:

1997-11-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/164873>

RIGHT:

#### 所外4

HIV/SIVキメラウイルスを用いた  
個体レベルにおけるHIV病原性の解明  
速水正憲（京都大・ウイルス・病原ウイ  
ルス）、松林清明（京都大・霊長類・サ  
ル類保健飼育管理施設）

HIV-1 由来のenv その他の遺伝子をも  
ち、サルに感染するHIV/SIVキメラウイ  
ルス（SHIV）のサル感染実験を通して  
HIV病原性を個体レベルで解明する目的  
で一連のSHIVを作成し、サル感染実験を  
遂行中である。所外供給を受けたアカゲ  
ザルはSIV/サル実験系で発症に必須であ  
ることがわかっているnef 遺伝子を欠失し  
たSHIV（SHIV-dn）を静脈内接種した。  
SHIV-dn 接種によりサルは持続感染する  
ものの発症せず、ウイルスに対する液性  
および細胞性免疫が誘導されることが期  
待される。現在、経過を観察中であるが、  
体内ウイルス量はnef 遺伝子をもっている  
SHIVより低く、末梢血リンパ球サブセッ  
トの変化も見られていない。今後、抗体  
応答、CTL検索等を行なう。HIV, SIVと  
いったレンチウイルスは長期持続感染の  
のちに発症するため、病原性の検討には  
時間がかかることを御了解願います。